

「集落連携100ha事業を活かした目標地図作成への取り組み！」

京都府 伊根町農業委員会 <伊根・朝妻、本庄、筒川地区連絡会議>

1 農業委員会の体制と市町村行政との連携状況

○ 農業委員：	11人
○ 農地利用最適化推進委員：	3人
○ 事務局職員：	2人
○ 市町村行政との連携状況：	毎月1回以上、役場で事務局担当者、現地推進役で調整会議を開いている。



2 地区の特徴、状況、課題

- 伊根町は旧4村からなる地域で、33集落の内、農業集落は26集落と約8割が農業関係対象地域である。
- 伊根町は、2級河川筒川に沿った平地で稲作が行われており、本庄地区の一部では京野菜を作付けしている。
- 農業法人が地域の主たる担い手となっているが、農業法人の手が入らない地域は年々耕作放棄地が増加している。

3 委員による継続した話し合いの取組内容

- 令和3年6月に農業委員会主導で、農業者意見交換会を開催し、様々な意見を受け、集落完結型農業の限界を機に集落間連携による農業の広域的取組について協議を重ねてきた。
- 令和4年4月にA-HITクラブを設立し、自治会を含む幅広い農業関係者を構成員として、集落間の連携や農業・農村の発展に関する諸問題を議論してきた。
その結果、農業分野のみならず、観光分野、福祉分野と幅広い意見が出され、将来の農村のあり方を総合的に考える必要性が出てきた。
- A-HITクラブの意見を基に問題解決を図るため、令和5年9月に伊根町農業活性化協議会を設立し、集落連携100ha事業の実施に着手した。
- 伊根町農業活性化協議会に農業委員会委員・農地利用最適化推進委員も構成員に加わり、伊根町全体で、集落連携100ha事業の取組について議論を重ねてきた。
その結果、農地の現況について、実態把握が必要なことから、白地図を基に農業関係者の協力を得ながら現況の耕作地図を作成した。
- 集落連携100ha事業の取組の一環として取り組んできたことが、結果として目標地図の基礎となる現況地図作成へ活かされた。

4 成果（京力農場プランの目標実現に向けた取組内容）

- 併せて目標地図の基礎となる現況地図の作成の手段となったことは大きな成果である。
今後は、A-HITクラブで出された課題を解決するための手段として農村RMO事業の実施を検討しており、農業を主軸として、農村資源の活用や生活支援について伊根町と強調し、取組を進めて行く。
- 農業委員、農地利用最適化推進委員が作成した現況耕作地図と集落連携100ha事業で作成した現況耕作地図との突合・整合性を図り、より精度の高い目標地図の作成に向け、地域の話し合いを基本として、目標地図の作成に向け、全町での話し合いを繰り返す行い、地域計画をまとめて行く取組を進める。

※事例候補（地区連絡会議の単位が望ましい）の選定や作成にあたっては、農業会議の現地推進役と相談してください